

ひんがらかわらばん

第4号
発行 2014年12月16日
九州地区
東日本大震災対策小委員会



隣人として共に生きる

―原発事故避難者の方々と知り合って

津屋崎教会 小林洋子さん

福島第一原発の事故により、九州の地に避難してこられた方々が大勢いらっしゃいます。それに伴い、各地で新たな出会いも生まれています。その一つを津屋崎教会の小林洋子さんにご報告いただきます。

私達は常日頃、先々の予定や計画を心に留めて平凡に生活していましたが、時として予想だにできなかった出来事に遭遇します。「2011年3月11日」もそんな日でした。友人たちとお茶の時間を楽しんでい

る中、テレビ画面に映し出されたのは現実とは思えない津波の姿。九州から遠く、行ったこともない東北を襲った地震の惨状に言葉を失いました。そして福島原発の事故。情報は錯綜し外国メディアやインターネットが発する危機感と政府発表には大きな違いがありました。東京

友人の反対を押してでも唯、子供達を外で元氣一杯遊ばせたい、安全な野菜や魚介を食べさせたいとの一心だったといいます。母は強しと言ってもどんなに不安だったことでしょうか。当時のことを語られるママ達のお一人お一人の声に真摯に耳を傾けたいものです。

その後福岡でも福島原発事故や震災に関係する集会や講演会などが開催されるようになり、そこで避難者の存在を知りました。それと前後して牧洋子姉と私は友人達に声をかけ、原発というものに無関心、尚かつ平和利用だの安全神話だのを信じてきた反省から「まず、知ることから始めよう!」と月一回の読書会を始めました。(2012年2月)そこに福津や古賀、新宮、宗像など近隣の避難者のママ達を誘ったことから交流が生まれていきました。宗像ではすでにママ達をサ

ポートしておられるグループもあり避難者同士の交流、ネットワークもできていきましたが、ほとんどのママ達は九州に縁もゆかりもない方々です。ある時、彼女達から時間や貸し室料などを気にせずに集まれる場所がほしいという話を聞き、「そうだ!私に出来ることは場所の提供だ。」と気づいたのです。実家感覚でいつでも気楽に出入りしてもらおうと思いました。おかげで夫と二人暮らしの静かな生活に若いママ達が彩りを添え楽しいものとなつていきます。彼女達は明るく、優しく、個性的で知識も才能も豊かに。

援法のこと、エネルギー問題、行政の対応、福島の子供達を招く保養プログラム等々、大きいことから身近なことまで問題山積、手をこまねいているわけには行きません。

震災から3年8ヶ月、小さかった子供達の成長を見守るのは本当に楽しみなこと、でも家庭の事情で福岡を離れていく人もいます。又まだ誰とも繋がっていない避難者の方々も多いと聞いています。私達はアンテナをはっていきましょう。隣人として共に助け合いながら生きていくために。

在住の外国人にも日本脱出、帰国命令が出ていました。そんな混乱の中、臭いもなく目にも見えない放射能被爆からわが子を守るために一刻の猶予もなく決断を迫られた若いパパやママ。昨日までの暮らしを捨て、福島原発から少しでも遠くへ遠くへとまずは母子だけの避難を選択した家族も多かったのです。福島群馬、千葉、埼玉、東京等からの九州までの道のりは、実家や友人宅を経由して時間もお金もかかる大変なものでした。特に自主避難者には何の補償もありません。夫や親族や

その後福岡でも福島原発事故や震災に関係する集会や講演会などが開催されるようになり、そこで避難者の存在を知りました。それと前後して牧洋子姉と私は友人達に声をかけ、原発というものに無関心、尚かつ平和利用だの安全神話だのを信じてきた反省から「まず、知ることから始めよう!」と月一回の読書会を始めました。(2012年2月)そこに福津や古賀、新宮、宗像など近隣の避難者のママ達を誘ったことから交流が生まれていきました。宗像ではすでにママ達をサ



2013/01/09

ボランティア報告

4人組のスローワーク

川野 是さん(大分教会)

○まずは被災地に 未曾有の大震災、巨大津波そして人間が制御できない原発の大爆発、流浪する人々。私はこの世の終わりだと思った。3.

11 以来現地に行きたいーとの思いが募った。そして被災者支援センターエマオのボランティア募集に大分教会からも参加することが決まり、早速応募したのである。参加者は西畑牧師、渡邊絃子姉、藤沢泰代姉と私のシニア4人組チームとなった。

○「スローワーク」 8月4日早

朝教会を出発。その日の夕方仙台到着、東北教区エマオ仙台で入念な説明を受ける。「スローワーク」である。労働奉仕のみでなく震災で傷ついた被災者に寄り沿い励ます、元気になるように、気負わずスローワークで支援する。これなら自分なりのタラントで

和の生徒たちと被災現場へ。仙台市から広大な平野をひた走る。今回ボランティア行方 笹屋敷地区を通り過ぎてしばらく走ると荒浜地区に到着した。被災現場への第一歩だ。廃墟が

恐怖は大人以上だったに違いない。○エマオを支えるスタッフ エマオのスタッフ(リーダー)は高校生や大学生が多いが、休日以外はできず、当然専任のスタッフもいる。彼らも若い。その中に現場を牽引する女性F

う差別)へ2名。奥羽教区(現状調査)へ1名。◆今年度、これまでお寄せいただいた支援献金の総額は312、674円です。ご協力に感謝いたします。また、続けて支援献金をお寄せくださいますよう、お願いをいたします。

日はオリエンテーション。ホールの床に全員が車座。驚いたのは教名を除きほとんどが中学生〜大学生だったことだった。これからは彼らと年齢や社会的立場も関係なく一つの合言葉「スローワーク」で一週間をともに過ごすことになる。

○奉仕活動の日々 大分4人組の最初の作業は農家・中林家の枝豆もぎり。多分スタッフがシニア向けに考慮してくれたのか、涼しい作業場で、快適な作業ができた。翌日から4人は別々の行動となったが、西畑牧師と渡邊姉は子どもたちのケアに回

○最後に・・・ 家族を失い、家が流され、悲しみと絶望の日々を送る人に頑張れとは言えない。せめて寄り添い、手助けをするエマオの働きに神様の恵みと励ましが与えられま

◆集会のお知らせ
東日本大震災報告集会
時 2月17日(火)午後3時(予定)
所 九州キリスト教会館
講演 「福島原発事故と避難、その後について」(仮題 講師は交渉中) 詳細が決まり次第、改めてお知らせします。

○初めて被災現場に 午前の「フールドワーク」は貸切バスで東洋英

師と渡邊姉は子どもたちのケアに回

(2014年8月派遣)

その他、各地区で関連集会が開かれています。

第6次ボランティア募集中!

第6次派遣期間に入りました。現地では様々な賜物が必要とされており、シニア世代の「プラチナ・ボランティア」が喜ばれています。派遣はまだまだ続きます。どうぞ、ご応募ください。

派遣先: 東北教区被災者支援センター(仙台市)
派遣期間: 各自でお決め下さい。

ただし 3日以上ワーク可能な方
派遣補助: 教区より一人5万円
作業内容: 外ワーク、仮設住宅での活動、こどもプログラム、夕食ボランティア等
お問合せ: 委員長 新堀真之
(香椎教会 092-661-3419)
詳しくは募集要項をご覧ください。



支援献金をお寄せください。

小さなことでも、息長く、被災された方々と共に歩む活動を継続してまいります。

つた。偶然 公民館で遊んでる様子を見かけた。見た限りでは明るく元気な子どもたちだったが、心の底は凶り知れない。あの津波の

支援活動かろう



長崎地区信徒大会(終了)
時 11月24日(月) / 所 佐世保教会 / 講演「今、福島で起きていること」片岡輝美さん(会津放射能情報センター)

福岡地区協議会

時 1月18日(日)午後2時30分 / 5時 / 所 九州キリスト教会館 / 講演「東北教区放射能問題支援対策室『いずみ』報告会」 布田秀治教師(いずみ愛泉教会牧師・いずみ運営委員)

今年度の活動概要は左の通りです。
◆直接支援 奥羽教区被災4教会(大船渡、宮古、新生釜石、千厩) 經常会計へ合計40万円。東北教区被災者支援センター・エマオのスタッフ研修費用として20万円
◆ボランティア派遣 12月までに8名派遣。
◆委員の派遣 部落解放全国活動者会議(会津・主題「原発」とい

運

